

遺族・CO裁
判、災害責任
追及、特集号

第一百七十号

ひとり住い

消えた夢

元來妻のトヨさんが壮健なうま

妻が脳溢血

裾分さんが大爆発に被災してから三カ月目、翌三十九年の二月十五日のこと、突然妻のトヨさんが脳溢血で倒れたのである。

そのころ彼はＣＯ中毒症状の経過がはかばかしくなく、自宅で静養しながら三井大領病院に通院、

いたものの、男の子たちといえは長男の照さんと次男の学さんがともに高校で、末っ子の修さんにとつてはまた中学に学んでいたときだったから、家庭の惨状は述べるまでもなからう。

長男の照さんは北九州大

進学、語学の専攻へ。

一度は決心して長男を進学させ
たものの、入院生活をさへ余儀な
くされたＣＯ患者の家庭では、学
費の仕送りなどを長く続けていけ
るはずがなかった。よほど熟慮し
たうえのことだったろう、照さん
成会の講師補としていそがしい毎
日だった。でも、持病はたれも知
らぬ間に、からだのなかで少しずつ
進行していたものに違いない。

昭和四十五年十月五日のこと、彼
女は、布教のために訪ねていた先
の家で再び倒れてしまったのであ

妻再び倒る

語彙遺稿集

ところで、若くして逝つた彼の
長男の照さんには、とりわけ豊かな
才能と輝く青春を恵まれていた。
学業もさることながら、高校生
時代から絵に堪能なうえに、詩や
創作など文学にも長じていた。
友も多かった。

彼は死後、数多くの絵や創作、
詩などの作品を残している。
生前から、彼はまわりの人びと
の息子たちにも、きつと思うよう
に大学で勉強させることができ、
そうなればこの子どもたちを、二
人ながらこども早く死に追ひやる
ようなことにもならなかつたは
ず。「そう思い始めますと、それ
らがみんな自分のせいのように思
われてきて、もうたまらなくなり
神棚の前に座つては「こらえてく
れ、こらえてくれ」といいながら
泣き出してしまふのです」。裾分

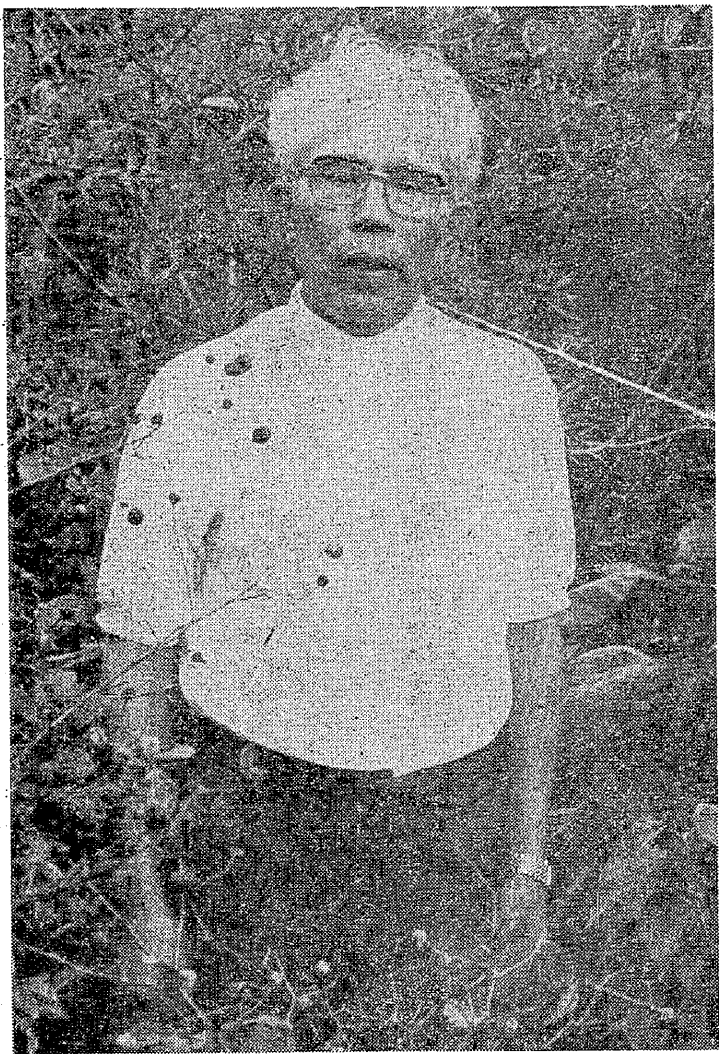
語る遺稿集

に大学で勉強させることができた。そうなければこの子とわたしを、二人ながらこの世で早く死に追ひやめるやうなことにせよとなつたはず。」「そう思ひ始めますと、それらがみんな自分のせいのように思はれてきて、もうたまたまなくなり神棚の前に座つては『こらえてくれ、こらえてくれ』といひながら泣き出してしまふのです。」「掘分

余りにもむごい不幸

悲し妻の死。続いて長男と次男も逝く

今は一人で社宅住まい



裾分文三さん。趣味はといえば、庭木いじりに盆栽。神へのお供えとともに、家があれば木々への水やりが唯一の楽しみと。「がんばつて……」と祈らずにはいられない。

親の悲しみ

はある日父親に、大学で勉強することを断念したことを告げ、その足でさっさと東京の某企業で働くことにした。「くやしきから、ついそのときは激しく怒鳴ったりもしましたが、だからといって学費を思うように送ってやることができないことを思えば、それ以上太学をやめるなどといえませんでした」と、くやしがる桐分さん。

相次ぐ死

トヨさんの死から三年目——、それは昭和四十八年四月二十五日のことだった。長男の照さんが東京で急死した。思わぬことに会社の仕事中、ビルの五階から路上に転落したのである。二十六歳の青年の、無残な死だった。

「夏休みが来ても、もう照おじちゃんはいねえの。遠い遠い空の上にはよならして行っちゃったもんね。さびしいね。お正月には、たくさんおみやげもつて来るよ。と誓っていたよね、楽しみに待っていた。それから、そのからだを包む古いは見えるからに痛々しい。彼のＣＯ中毒症についてはどうとう書かずじまいに終わったが、その傷痕は悲しみとともに深く、先々のことを思わずにはいられぬ。でも、たとえ他家へ嫁いでいる

年の五月十二日、ちよ

次いで、次男の学さんが高校を卒業する。高校生のなかでは有名なレスリングの選手だったから、さっそく「授業料は特別に免除するからぜひ進学を……」と、日本体育大学からの勧誘だった。

でも、たとえ授業料こそ免除されても、クラブ費が要る、生活費も同じだったのはどんな言葉でも、大きな「い」

死を遂げた兄の照さんの後を追うようにして、こんどは次男の学さんが急死。二階の部屋で、会社の同僚と二人で盆を交わしているなか、ふと便所に入ったとき足を踏みはずして階下へ転落。トシも兄とまったく同じなら、その死にかかっても同じだったのはどんな言葉でも、大きな「い」

大きく良い子になって、照おじちゃんがいる東京に来いよ、といっ

ていぬすをおおようこびさせてから、おじちゃんのいったこととはみんなうそだったのね。照おじちゃんの大うそつき。なによ。なん

でそんなに早く死んでしまったの

ば通信労働者というばかりでなく、全通信労働組合の北九州市の組織をささえる組合活動家のひとりだ。あの三池闘争を闘い抜いた父の親の根性を受け継いだのにきまっ

ている。

それに、三池の仲間がいる。堀分さんがんばれ。